五月宝生会　月浪能

五月八日（日）
午後一時始
正午開場
於　宝生能楽堂

演目の解説

能「采女」（うねめ）

大人の春日に社へ参る途中、奈良の采女を見かけた。采女は木陰で美しい花を手折っていた。人々は采女の美しさに見とれ、その花を手折ることを忘れてしまう。采女は人々の視線に気づき、恥じらいながらも、その花を手折ることを決心する。采女は、その花を手折ることで、人々の視線から逃れようとする。しかし、采女は、その花を手折ることで、人々の視線から逃れることはできない。采女は、その花を手折ることで、人々の視線から逃れることはできないことを知る。采女は、その花を手折ることで、人々の視線から逃れることはできないことを知り、その花を手折ることを決心する。采女は、その花を手折ることで、人々の視線から逃れることはできないことを知り、その花を手折ることを決心する。

能「綾鼓」（あやのつづみ）

前世の皇居の庭掃きの老人は、美しい女御に恋をし、その恋に落ちて、女御の居る庭を掃いていた。老人は、女御の居る庭を掃いていた。老人は、女御の居る庭を掃いていた。老人は